

# 学生の交換、恒常的に

## ベオグラード大と友好さらに

ユーゴのベオグラード大学と中央大学の交流協定調印式が3月12日に行われ、翌13日には外間寛前学長が同大から名誉博士号を授与されるなど、日本・ユーゴの国際親善風景が繰り広げられた。

両大学間の留学生交換は88年、全学的レベルでの交流協定が締結された。以来、97年から2年間、中央大学の文学部と経済学部がベオグラード大生を初めて迎え入れ、これに続いて、ことし4月から文学部で1人を受け入れた。一方、本学からもことし9月から、政治学専攻の女子学生が第1号の交換留学生として現地に派遣される。

今回、「交流協定書」の改定に合わせて、「学生交換覚書」の調印が行われたことで、学生の相互交換は恒常的に行われることになった。

（前国際交流センター所長・  
経済学部教授、佐藤清）



交流協定に調印する鈴木学長（左）

交流協定の調印は鈴木康司学長とヤロス・ピユリツチ学長によって、また、学生交換覚書は私とレビィヤクシツチ副学長（国際交流担当）によって行われた。

調印式は12日、ヨーロッパの歴史と伝統が色濃く漂う荘厳なホールで行われた。多くの大学関係者やマスメディア、そして在ユーゴ・大和田恵朗大使ご夫妻はじめ、大使館員の方々の出席のもとに行われた。調印式に先立ち、ピユリツチ、鈴木両学長の挨拶、そして大和田大使の祝辞があった。

### 外間前学長に名誉 博士学位記を贈呈

ピユリツチ学長は、中央大学の変わらぬ友情に感謝の意を表すとともに、日本において中央大学がいかに prestigee（威信、名声）の高い大学であるか。また、このような大学と交流協定を締結できることは、大変名誉なことである、と表明された。続く鈴木学長のスピーチは大学人としての誇りを強く感じさせるものであった。



〈左〉セルビア共和国の科学技術大臣らと  
会見する鈴木学長  
〈下〉学生交流覚書に署名する佐藤国際交  
流センター所長とヤクシッチ副学長



## 荘厳なホールで調印式



〈上〉名誉博士学位記を手に祝福を受  
ける外間前学長

〈左〉謝辞を述べる外間前学長



翌13日正午から同大学セレモニーホールで、外間前学長に対し名誉博士号が授与された。先ず、ピュリツチ学長が開会宣言は、苦境下にあつたベオグラード大に対し、外間前学長が示してきた変わらぬ友情に対する感謝の言葉であつた。

名誉博士号を授与された外間前学長のスピーチが行われ、今回の交流

協定の更新を心から祝福する内容であつた。出席者はその流暢な英語を讃え、セルビア語への同時通訳を努めた女性も、外間前学長はエクス・マルセイユ第3大学に次ぐ2度目の荣誉である。

【中央大学代表团】鈴木康司学長、外間寛前学長、佐藤清国際交流センター所長、外村幸雄学長室秘書課長、望月洋子国際交流センター副課長

## 中大を愛する留 学生育てた喜び

一方、鈴木学長はセルビア国営ラジオテレビ局のインタビュー、セルビア共和国科学技術大臣との会見、バルカン半島最大の新聞「ポリティカ」社主との会見など、限られた時間のなかで積極的に応じた。

帰国に際しては、学長、副学長をはじめ理事長など、多くの方が空港まで見送ってくれた。そのなかに、ベオグラード大からの交換留学生第1号であつたイリーナ・ドウコスカさんが顔を出してくれたことを記しておきたい。

われわれの滞在期間中のすべてに付き合ってくれた彼女は、マケドニアから国境を越えて11時間の道程をバスでわざわざ来てくれたのだ。別れの際には長身に大粒の涙を浮かべていたドウコスカさん。私たち一行も、中大を心から愛している留学生を育てたことを喜んだ。